

【執筆者一覧】

小原 明恵 (放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2012 年 3 月修了)
川原 容一 (放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2012 年 3 月修了)
浦岡 勉 (放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2012 年 3 月修了)
武田 拓明 (放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2012 年 3 月修了)
藤井 幹夫 (放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2010 年 3 月修了)
川島 一秀 (放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2011 年 3 月修了)
小川 正人 (放送大学大学院文化科学研究科・人間発達科学プログラム 教授)
(東京大学名誉教授)

【編集後記】

本号は、放送大学大学院小川研究室に所属する 2011 年度修士課程修了生 4 名と 2010 年度修了生 1 名、2009 年度修了生 1 名、そして、私の科学研究費による調査記録を掲載しています。

小原さんは、大学卒業後、民間会社に勤務されながら放送大学大学院で研究への関心・意欲を持続しその成果の一部を修士論文にまとめました。本号掲載論文はその修士論文をベースに書き直したのですが、更なる研究の発展を博士課程進学を見据えて考えています。川原さんと浦岡さんは、元学校長の経験を踏まえ現職時代に抱えていた課題意識からそれぞれの研究テーマに取り組んだ成果です。お二人が取り組んだ研究課題は今日の教育課題の重要なテーマとなっており論文での考察は示唆の多い内容となっていると思います。武田さんは、長い間、自治体の社会教育行政に携わった経験から修士論文で学習交換という研究テーマに取り組みましたが、本号の論文は修士論文の一部を掲載したものです。藤井さんは、放送大学大学院小川研究室の第一期生ですが、定年退職後も再任用で勤務されながら小川ゼミの TA としても研究室の研究活動をサポートして頂いてきました。2013 年 4 月からは東京大学大学院学校開発政策コース博士課程に在籍し研究を継続することになっています。

本号では、高大接続テストを提案した佐々木隆生さんの『大学入試の終焉』の書評を公募しました。2011 年 11 月から中教審初等中等教育分科会の下に高校教育部会が設置され、私もその部会長として高校教育の質保証とその仕組みづくりの審議に参加してきました。ゼミ生には高校関係者が多いこともあり、佐々木著『大学入試の終焉』の書評公募という形で皆さんのご意見をお聞きしたいという趣旨もありました。結果的に、川島さんお一人からの応募だけとなりました。中教審・高校教育部会の審議経過は、高校段階における参加型（任意の）全国テストという形でマスコミでも報道されていますが、2013 年半ばまでその審議は続く予定ですので注視してもらいたいと思っています。

本号の編集作業は、TA の藤井幹夫さんにその殆どを担って頂きました。年度末の御多忙中、本当に有難うございました。深謝。 (小川 正人)

大学院小川ゼミは、メンバーの多くが、現職の中核教員、管理職、教育委員会の行政職やその OB の方々です。研究テーマも、仕事上、日々向かい合ってきた教育課題を取り上げたものが多く、皆が集まってそれぞれのテーマを検討しあうゼミは、日本の学校教育の現状や課題が浮かび上がる場にもなっています。本誌に掲載される論文も、こうした事情を反映し、教育行政の分野だけでなく、教育政策、学校経営、教育実践などにわたって学校教育全体が見渡せるような研究誌になってきているのではないかと感じています。 (藤井幹夫)